



九条の会

秋葉区「九条の会」事務局

新津教育会館内

新潟市秋葉区善道町2-9-44

Tel 0250-21-3691 Fax 0250-21-3692

<http://9jo.iinaa.net/index.htm>

結成6周年！ 165人が集う！

記念講演 渡辺 治 さん（一橋大学名誉教授）
音楽コンサート 五十嵐尚子さん

12月3日に開催された「秋葉区九条の会6周年のつどい」は、加茂九条の会からマイクロバスで駆け付けた30人を含めて165人の参加者が健康センターのはつらつホールを埋めました。

「6周年のつどい」は渡辺議代表委員の挨拶に次いで、ソプラノ歌手五十嵐尚子さんのコンサートに移り、木枯らし、紅葉、里の秋・・・の懐かしい歌、「大震災」の犠牲者への鎮魂の気持をこめたレクイエム、・・・そして五十嵐さんの軽妙なトークを楽しみました。

メインイベントとして「大震災・原発事故後の日本のゆくえと憲法の役割」と題して、(全国)「九条の会」の事務局次長の渡辺治さん(一橋大学名誉教授)の記念講演に移りました。渡辺治さんのテンポの良い、分かりやすい話に引き込まれ、ポスト大震災の「憲法の役割」について参加者の心に深く刻み込まれました。

渡辺治さんの講演要旨

1. 東日本大震災、原発事故はなぜ起こり、深刻化したか

地方、ことに東北地方は長年の自民党政権の開発政治のために、農業も地場産業も衰退していたが、さらに大企業のための構造改革により地方公共団体の体力は著しく損なわれていた。そこに大震災が襲った。僻地、寒村が「最後の公共事業投資」として原発建設を次々に受け入れざるを得なくされた結果、世界に例のないほど過密になった。

2. 民主党政権は、3.11にいかにか立ち向かおうとしたか

国民の期待を集めて誕生した民主党政権だったが、財界、アメリカの圧力で次第に後退、鳩山内閣は自死、菅内閣はTPP、消費税引き上げ、社会保障と税の一体改革など財界とアメリカにすりよりながら登場した。震災復興を好機とみてつぎつぎと打ち出す財界の要求に迎合しながら、震災大連立ができると考えたが、復興財源に縛られて迅速な財政出動ができず、引きずりおろされた。

3. 野田政権はどこに向かうか

野田総理は組閣さえ済まないうちに財界首脳に挨拶に出向いたり、TPPへの参加をほのめかすなど財界とアメリカへエールを送り、強い支持を取り付けた。社会福祉と税の一体改革、消費税の引き上げ、TPP、原発の維持・再稼働・輸出など財界、アメリカの要求を実行する民・自・公の協力体制の確立へひたすら突き進んでいる。

4. 私たちはなにをすればよいか 憲法を生かす日本の未来

大連立による火事場泥棒的な構造改革を許さないために、この4つの課題を阻止する国民運動を起こさなければならない。その可能性はある。TPPには農協、医師会も反対している。消費税引き上げは国民の強い警戒と反発がある。原発には保守支配層にも脱原発の声があり、これまでの運動にはなかった新しい階層のエネルギーな行動がある。普天間の辺野古移転反対は沖縄の全島の意志であり、本土の市民の声も広がりつつある。

これらの運動を単なる反対ではなく、震災後ますます必要性が明らかになった憲法9条と25条が輝く福祉国家の具体像を対案として広めていくことが大事だ。震災と原発事故は憲法25条の権利の大切さを明らかにした。

5. 歴史的分岐点にたって、どちらの道へゆくのか

3.11は歴史的転換点になった。すなわち、新自由主義の再起動の出発点になるか、それとも新自由主義から決別し、9条、25条を生かす福祉国家を目指すうねりの起点とするか、それは我々の運動にかかっている。

平和のメッセージ

秋葉区「九条の会」結成6周年の
つどいに参加しての感想です

渡辺講演を聞いて

吉田 健（善道町）

宮城県の病院の労働組合員で「津波にあった仲間は、がんばったけれども大勢の患者さんが波にのまれてしまった」と悔やんでいた。「もっと多くの職員が配置されていたら…」という言葉聞いた。平日の午後、病院としては職員配置の厚い時間帯でも、多くの患者さんを亡くしてしまったことを悔い、安全を確保できる体制を求める声を、震災に便乗する我田引水の議論とは言えないと思う。

しかし、今進められようとしているのは、復興財源と「社会保障改革」を理由にした消費税増税。そして消費税増税がもう決まっているかのように「消費税を増やすのだから社会保障も効率化を図らなければ」の声も出ているという。TPP参加協議と言い、復旧ではなく“復興”を押しつけることと言い、政府の行動からは、被災地の被害を大きくした構造改革を、震災を口実にさらに推し進めようとする姿勢しか見えてこない。

渡辺先生の講演で「では今どうするか」の部分があまり具体的に聞けなかったように思った。大阪の選挙のように道を求めている人が迷ってしまう状況もある。正しい方向を早く知りたい気持ちはある。でも、人に考えてもらった道の上では正しい行先に向かっているかの判断もできない。

国民の自由な声を押しつぶして戦争への道を進み、最後には多くの国民が見殺しにされて負けた。そのことへの反省が9条・13条・25条、その他もろもろの条文からなる今の憲法を生んだ。根本にあるのは「国のための臣民」から「国民のための国」への転換だったはずだ。政府が進めていることは憲法の逆に行くことばかり。だったら私たちの望むものを集めて、どう実現していくかをみんなで考えて行くことから道は見えてくるだろう。

「6周年のつどい」に参加して

高橋美緒子（加茂九条の会）

秋葉区「九条の会」結成六周年のつどいの日は、加茂九条の会の月例会の日でした。学習するには絶好のチャンスとばかり、三十人でつどいに参加しました。

まずは五十嵐尚子さんの美声とトークを堪能。中でも里の秋（反戦歌であること）やレクイエム（大震災で亡くなられた方たちに重ねながら聴くことができ）は深く心に残りました。

記念講演では、渡辺治先生のエネルギッシュなお話に感銘を受けました。民主党が政権を取ってから三人目の首相交代劇と、大震災後の政治の混迷にうんざりしていました。それにも増して放射能を撒き散らした後始末もしないまま、原発再稼働の向かっていることには呆れ果て「もうこんな国どうにもならない」と思うことが度々でした。女性たちの集まる場でも民主党が政権を取った直後は、これまでの自民党を批判し期待を込めて熱く政治を語っていました。しかし、近頃は失望したのか誰も触れようとしません。みんなが方向を見失っている感じでした。

そんな時、渡辺先生の「私たちは何をすればよいのか」を聞き気を取り直した思いです。東京の大集会のようなことはできなくても、どんな小さな集まりの場でも、語ることが大切だということです。それが、渡辺先生の「まず国民が声を上げること」につながることでしょう。諦めムードで黙っては何も前に進めないということです。ですから、今自分たちが歴史の大きな岐路に立っていることを自覚し、一層勇気を出して声を上げていかなければと思いました。

「九条の会」は高齢者が多いが「原発ゼロの運動」には、若者も多く若いお母さんたちも大勢いるという先生のお言葉にも大いに元気づけられました。

「協力券」収入 169,000 円！

ご協力ありがとうございました。

会場使用料、謝礼、その他で 117,411 円支出し、差引残金は 51,589 円になりました。

12 月末の「会」財政の残金は 90,149 円です。秋葉区九条の会では、「協力金」募金が活動資金となっています。偶数月に発行している『会報』は、郵送料を含め約 9,000 円かかります。

憲法9条を守るために、共に頑張りましょう。



秋葉区九条の会
結成6周年のつどい
スナップ写真集

